

長良川河口堰検証公開ヒアリング ～河口堰と知多半島の飲料水について～



東浦町議会議員 神谷明彦

長良川河口堰完成後、知多半島の
水道水の水源は長良川河口堰に。

飲みたくても飲めない木曾川の水。

愛知県知多郡東浦町 議会議員 神谷 明彦

神谷明彦のホームページ<http://homepage3.nifty.com/kamiya-a/index.html>
つれづれログ(ブログ)<http://kamiya-a.cocolog-nifty.com/turezure/>

知多半島の水道水の水源を長良川 河口堰から木曾川に戻したい。

- 木曾川の水はおいしい。
- 河口よりも中流域の水のほうがきれいに決まっている。
- どうして河口堰の水を飲まなきゃいけないの。

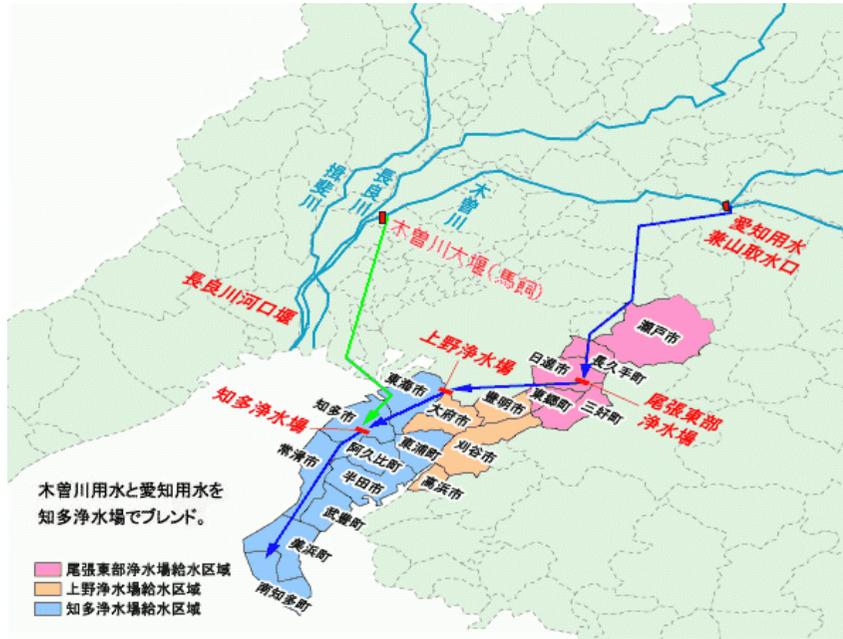
問題を抱えたまま長良川河口堰が完成

- 環境破壊
- 税金の無駄遣い



知多半島の水道水が河口堰の水に切り替えられた。

平成10年3月以前



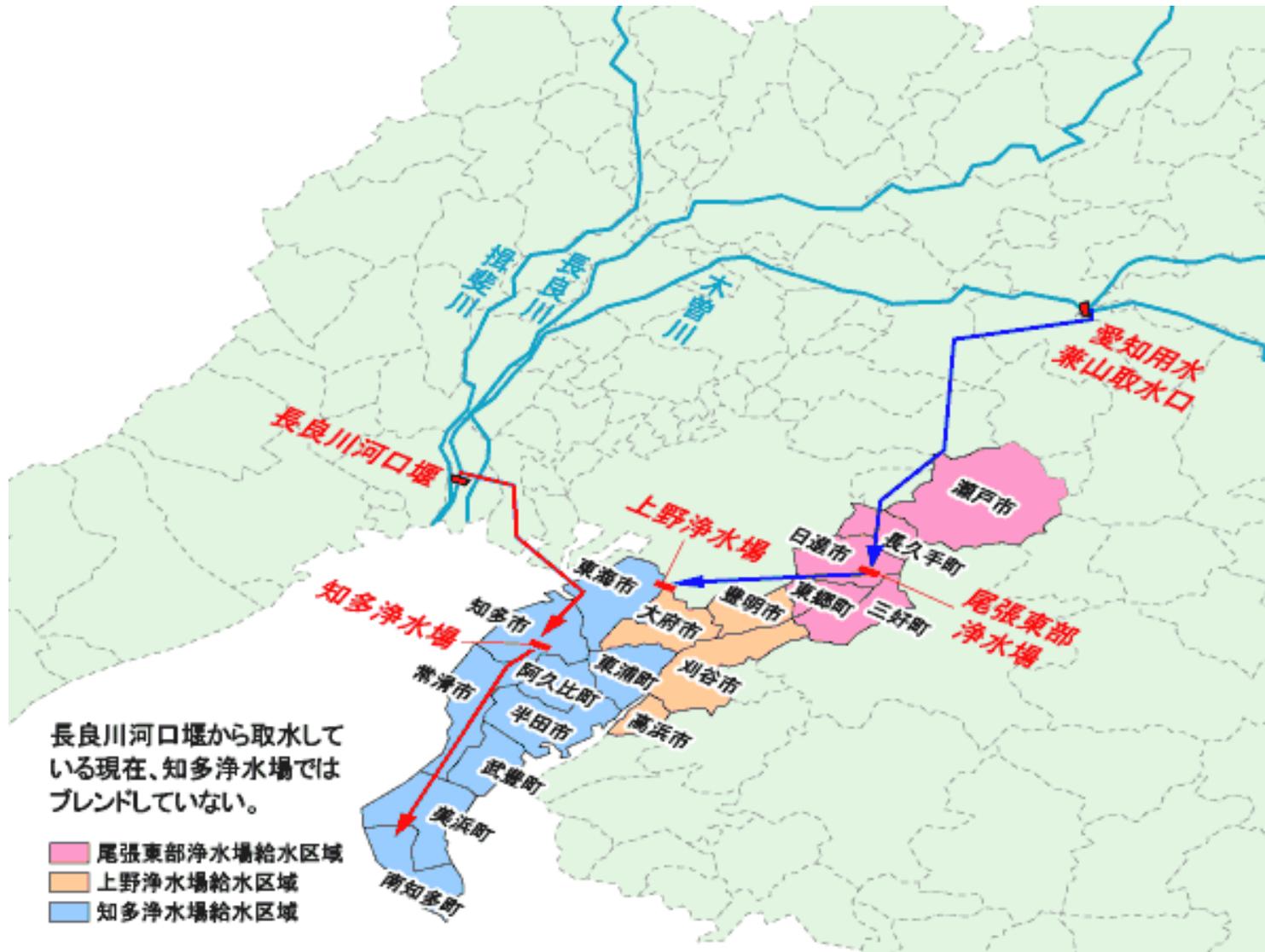
平成10年10月以降



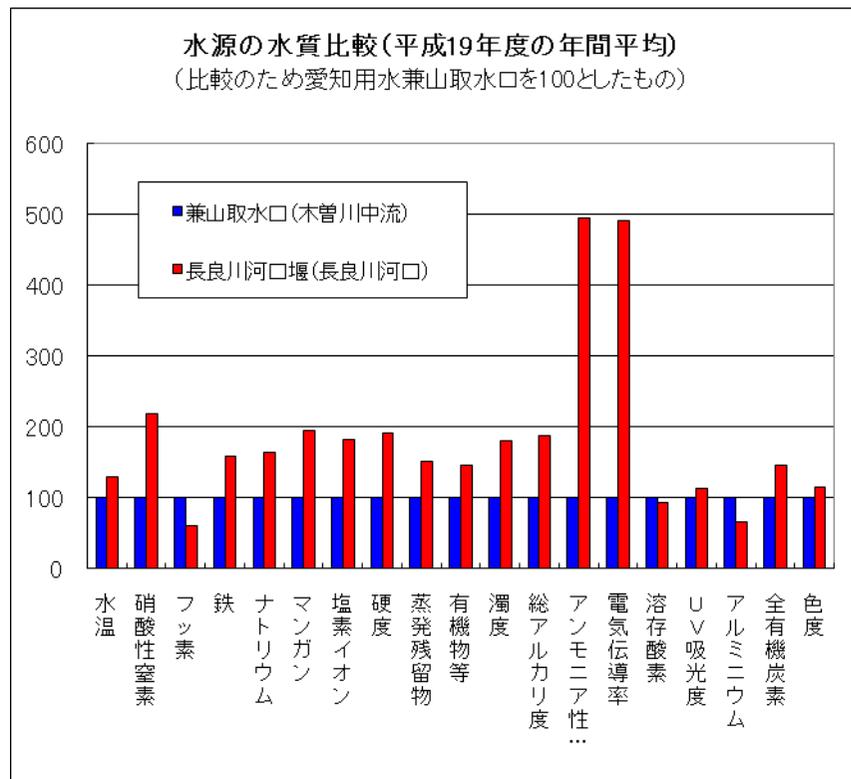
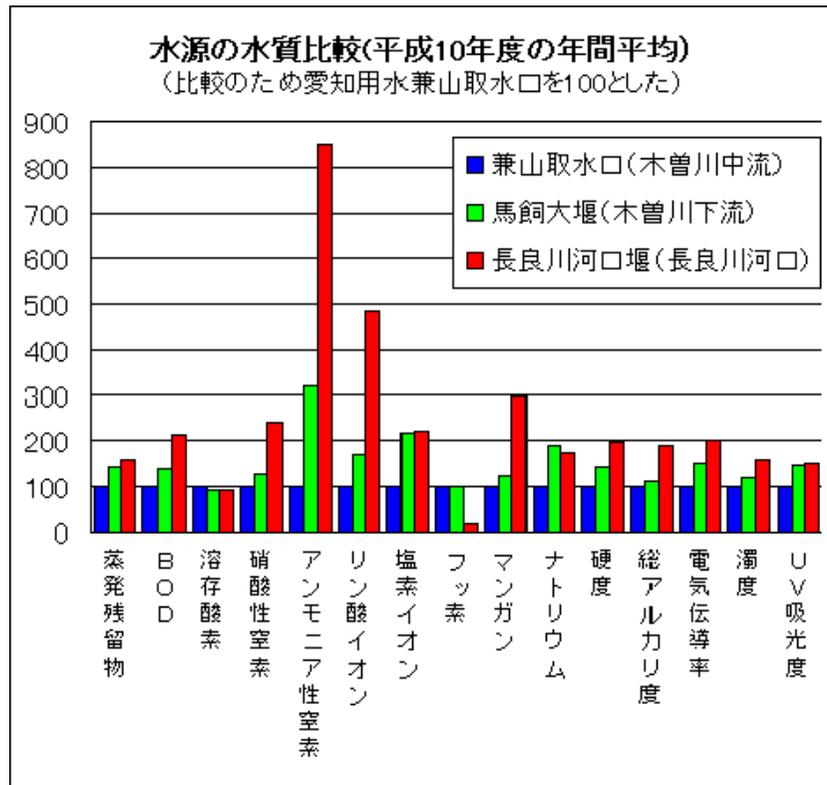
河口堰供用前(～平成10年3月)



河口堰供用後（平成10年10月～）



河口堰の水は木曾川の水とどう違う。



浄水場での薬剤投入

処理の際に、PAC、苛性ソーダ、次亜塩素酸、活性炭などを使用

活性炭の使用量の比較

年度	上野浄水場 1)		知多浄水場 2)	
	使用日数	使用量(kg)	使用日数	使用量(kg)
H7	1	1,500	0	0
H8	6	4,200	1	450
H9	1	600	5	750
H10	32	80,220	65	108,540
H11	9	3,420	68	49,660
H12	2	180	196	231,075
H13	1	360	109	114,590
H14	0	0	90	68,610
H15	21	16,200	34	18,210
H16	0	300	9	1,849
H17	10	4,280	51	41,780
H18	20	5,580	143	107,391
H19	19	10,160	115	106,140
H20	11	2,531	58	62,580
H10～H20平均	11	11,203	85	82,766

1) 上野浄水場の水源は木曾川で、
大府市以北、刈谷、高浜に給水
年間処理水量は、約4000万m³

2) 知多浄水場の水源は、
平成10年に長良川河口堰に切り替えられた
年間処理水量は、約5600万m³

知多浄水場に新設された活性炭投入施設



活性炭の投入は長良川河口堰からの取水が始まってから日常的に行われるようになった。

やっぱりきれいでおいしい木曾川の水を。

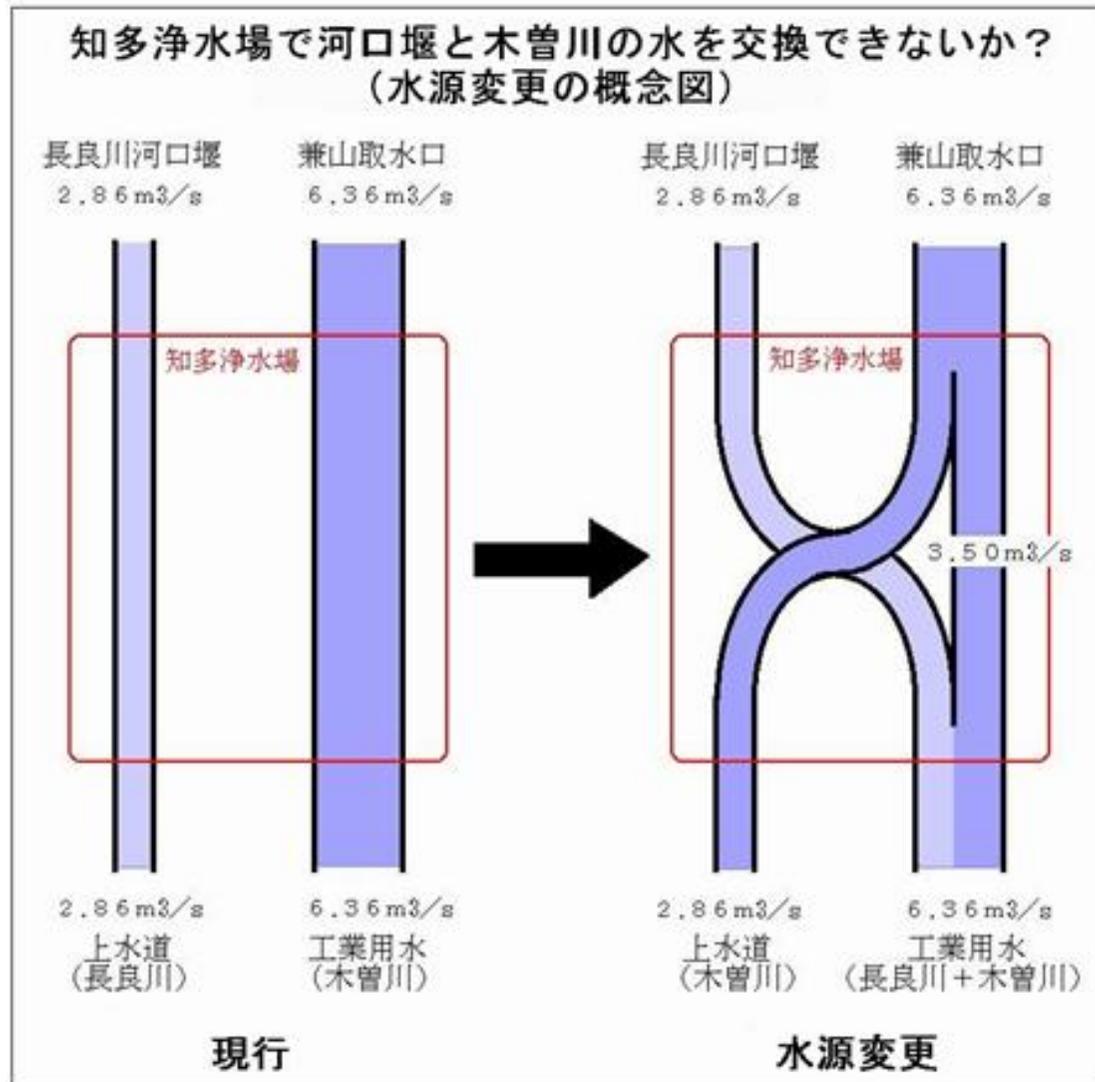
<できない理由>

- 水の安定供給のためには河口堰の水は必要
- 水道水としての基準は満たしているので問題ない。
- 水利権の整理は至難。

水利権？ でも、なぜ農業用水と工業用水は木曾川の水。

- 浄化するにしても、よりきれいな水、よりおいしい水。
 - 人が飲む水と産業に使う水とどちらが優先か。
(岐阜市を抱える長良川流域人口は80万人以上。当然たくさんの生活廃水、工業廃水、農業廃水が入る。
木曾川中流域はせいぜい20万人程度。)
- 水利権調整は、水の融通は、できないのか？
→ でも、もっと簡単な方法が！

水の交換構想（水源スワップ）



知多浄水場では水源の切り替え可能 (あくまでも緊急時というが)

- 平成12年9月 長良川上流で化学薬品が漏れ出す。
- 平成16年7月 長良川河口で塩水が遡上。

長良川と木曽川のブレンドを模索している浄水場

- 愛知用水二期工事で $0.55\text{m}^3/\text{s}$ の木曽川の水を確保、ブレンドが可能に。
- 異なる水質の水を処理するには手間がかかる。

→ それならそっくり換えれば？

意見書案を提出・・・されど。

上水道の水源を長良川河口堰から木曾川にもどすことを求める意見書(案)

知多半島東浦以南に飲料水を供給する知多浄水場の水源は、元々、木曾川中流の兼山取水口で取水された愛知用水の水だった。これが、後に木曾川下流の馬飼大堰に切り替えられ、さらに、長良川河口堰完成後の平成10年には、長良川の河口の水に切り替えられた。それ以来、まずい、臭いという苦情があったにもかかわらず、長良川河口堰の水が供給されている。多くの住民が、早く木曾川の水に戻してほしいと望んでいる。

知多浄水場では、木曾川の水と長良川河口堰の水を両方供給できるようになっている。にもかかわらず、飲料水には長良川河口堰の水、工業用水や農業用水には木曾川の水が依然として供給されている。長良川河口堰の水は、非飲用水に振り向け、よりきれいな木曾川の水を飲料水に優先して供給するのが当然と考える。具体的には、長良川河口堰の水を工業用水にまわして、工業用水に使っている木曾川の水を同量上水道にまわせば、使用水量の過不足を生ずることなく知多半島に木曾川の水を飲料水として供給することができる。

愛知県は、長良川河口堰のおかげで安定した水供給ができるようになったと言っているが、私たちはそれを否定してはいない。長良川河口堰の完成で余裕のできた木曾川(愛知用水)の水を飲料水に優先的にまわすべきだと言っているだけだ。多大なコストをかけることなく、パイプの中を流れる水を切り替えるだけで、豊かな気持ちになれるのであれば実行すべきである。

木曾川の水は愛知の誇れるもののひとつである。関係各機関に対し、この木曾川の水を再び知多半島全域の人たちが飲めるようにするための必要な措置を取り計らうことを強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

(提出先) 愛知県知事、愛知県企業庁長、国土交通省中部地方整備局長

(提案理由)

よりきれいでおいしい水を飲みたいという自然な欲求を満たし、住民満足の上昇を図るため。

結果は、6対13で否決(平成18年12月)

6対10で否決(平成21年3月)

- 水源問題の本質はハードでなくソフトにある。
水の融通など、柔軟な対応で解決可能。
- 人任せでなく、自分たちで解決策を選択。
旱魃や洪水は防げない。
ハードに頼れば、将来へのツケや環境破壊は続く。
少々の不便は我慢も必要。
- 水源問題は、単なるハードの問題ではなく、人と人、上流と下流との問題。
水量と水質が確保できるのは、上流のおかげ。